

湯川 秀樹 先生

©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館史料室

2月2日

Pug. Conf. は昨日やつと終わりました。昨日の最終 Plenary Session は4時に終了予定が10時頃までかかりました。責任の一端は、充分英語の wording の準備なしに中口内題をもたせた私にもあるのですか。

全体として大して変りはえませんでした。勿論後進口の援助内題が新しくもたせられ、長い report がつくられました。これも Pug. でなくとも というようなものではないような気がします。

詳しい報告は、文献の内題もあつたので、滞印中に整理して、からにいたします。三宅先生からも報告はあると存じます。

大体の雰囲気としては、ソ連は新規な提案に対して非常に警戒的ですし、アメリカは新しい idea (それも田中煥次部長の表現で *instrumental* なもの) を出さなければ Pug. の任務と考がえてるので、結局、妥協案は行のかわりばえもないものに存じます。今度の議論のうち、援助内題については米ソとも満足したようですが、(アラビヤなど小口の内部は皮相的だ) という批判がありました。私も同意見です。軍縮内題については、アメリカ側は大不満です。というのは、盛り込んだ内容が、

1) 殆ど Institutional なもので (アメリカはこれに反対はしないが、彼等はこれを有効なものとして認めません。しかし、反対ではないので、一致した信務ということになるわけですが) 2) 大部分が

フルレゾフ提案に含まれていて、新しいものではない、ことでした。これに反して、ビヨソン提案に肉するものは、次の機会に更に discuss しようという形で残されてはつたわけですが、とも角、軍縮内題については議論ばかり多くて、最後に出した結果は、あまり何も無いということは事実です。しかし、次の Pug. で議論することにして残された内題がいくつかあります。

次の Pug. は 9月頃チゴ、事はイタリーとポーランドの予定で、若し日本も持つてくるとすれば 1966年ということになります。どうしたらいいかはわかりませんが、日本の立場をある程度出さないとすれば、日本で聞く必要はあると思えます。

尚、チゴの Conf. では、参加者は Rome work をしてくること、という条件がつけられました。又今回の Conf. でも三宅先生から潜水艦内題の話は出たのですが、あまり肉心を言いませんでした。これらの内題を出さないとすれば、これもかなりの準備にあく必要があります。これらのことは、5月の島根会の際にも指摘したいと思えます。尚、アメリカ側が強く、結局議論が止まりました。次の Conf. はつかされた。 ~~下~~ ビヨソン提案の校兵器の凍結と

©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館史料室



京都大学
基礎物理学研究所
湯川青樹様

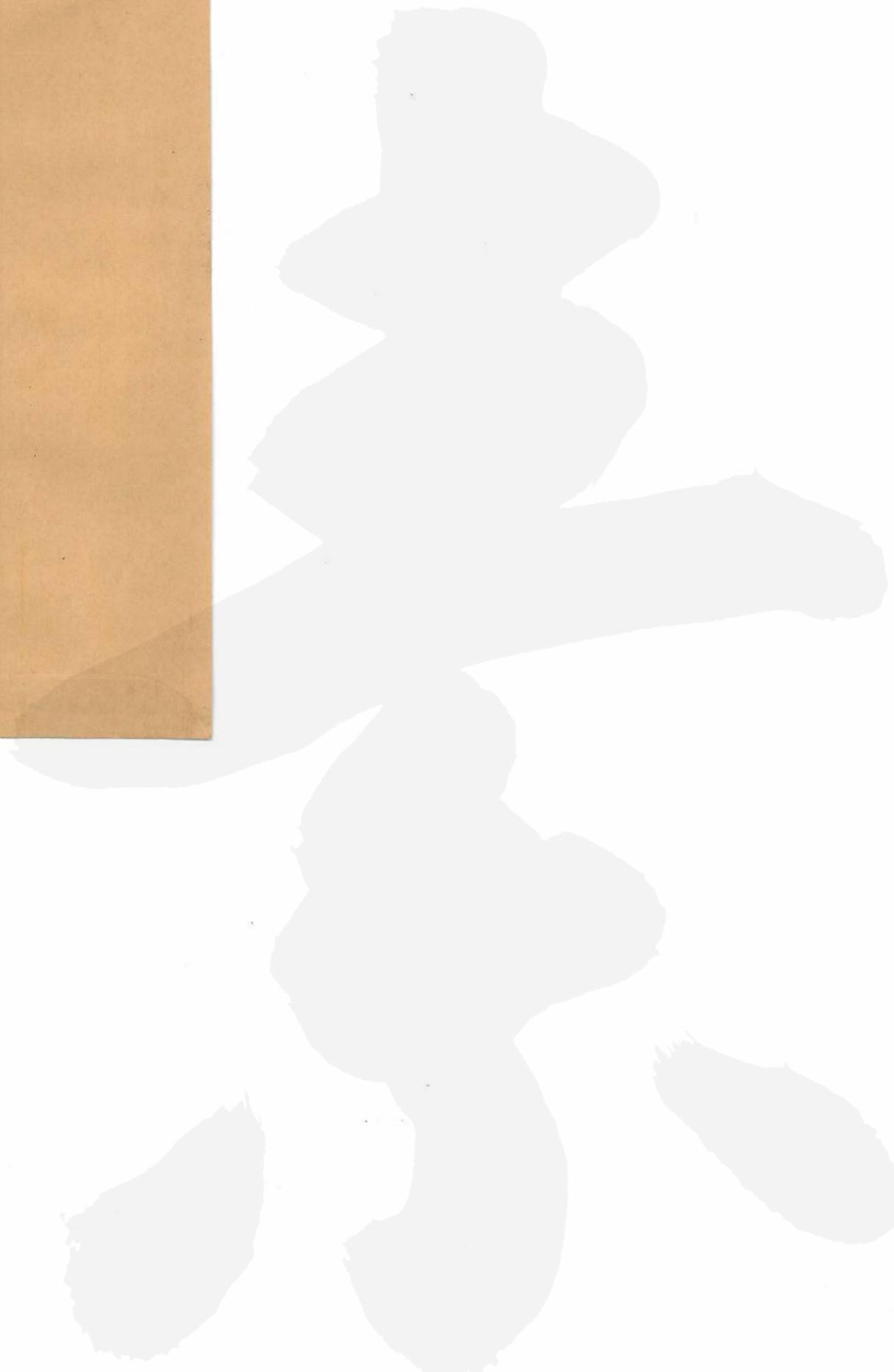
昭和 年 月 日

気象研究所

東京都(杉並局内)
杉並区馬橋4丁目499番地
電話東京(335)3131~6



東京新橋区區馬橋四丁目
氣象研究所
三宅 泰雄



一九六四年三月十日

湯川先生

三宅 幸太郎

ライオールのハカウツを科学者層議に出席し
て参りました。ハカウツの多岐の方向がよろし
く申しこらうと思つた。

會議の程おもしろいとは何かお報告いたし

ますかとりあえず 声州まの二部二十五部

を御便にお送りいたしおしなめて。関係の

うきには済し終えおはきき甚なり

山田君もいろいろお世話になりました

おすはたま

敬具

気象研究所